

世界かんがい施設遺産

ゆのくちためいけ・いで

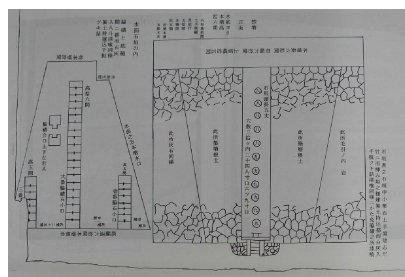
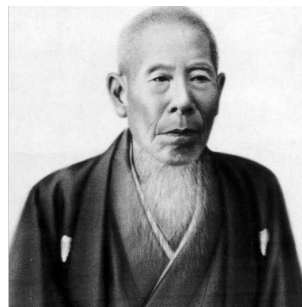
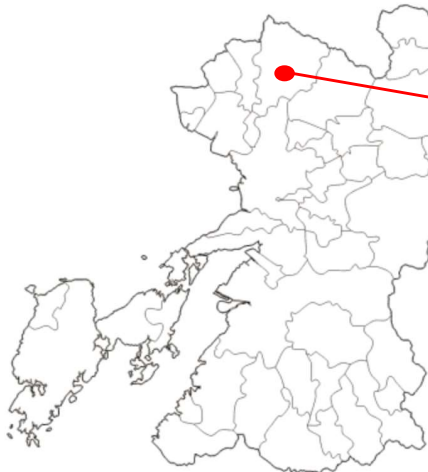
湯の口ため池・井手

〔 熊本県 山鹿市 〕

Yunokuchi Tameike Irrigation System

遠山弥二兵衛

～近世くまもとの公共事業の父～



【築造時の設計図】



【現代も続く農の営み】



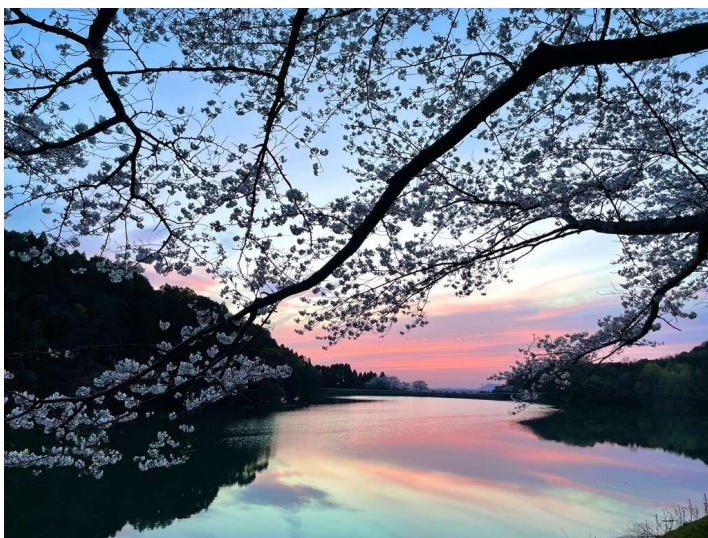
【改修前の堤体の状況】



【遠山神社】



【トンネル内部(導水路)】



【夕暮れに染まる湯の口ため池】



【改修前の斜樋】

- 湯の口ため池・井手は約170年前に建設され、堤高30m、堤長110m、貯水量50万トンのため池と全長3kmの導水路、3本の用水路が整備された。これにより76haの新田が整備され500haもの地域を支える施設となった。
- 事業の施工にあたっては、現在でいうところの広域行政の単位である「手永（てなが）」が主体となり、その総責任者である遠山弥二兵衛による主導のもと、費用見積、設計、施工管理に至るまで全て「手永」による自主運営でなされていた事が文献に残されており、村人達に資金の拠出や区役（無償労働）を求めない旨の説明会をしていたことも記されている。
これは熊本藩独自のシステムである手永制により、農業水利事業が幕府や領主といった領主権力による実施から、手永という地方行政組織も事業実施主体としての役割を担っていったことが伺える施設である。
- 遠山が亡くなった後、村人は彼の恩を忘れないようにと池のほとりに遠山神社を作った。それから168年、現在も地域では農家も非農家も関係なく住民総出による維持管理がされており、人々は毎年4月4日に遠山神社に集まり、そこには遠山の子孫を遠方から招待し、彼の功績を偲びながらお祭りが行われている。